

2024年8月25日
宮崎中部教会主日礼拝
牧師 乾元美

イザヤ書 53：11～12

ルカによる福音書 22：31～34

「あなたのために祈った」

【招詞】詩編 34：6～9

【讚美歌】24 「たたえよ、主の民」

【詩編交読】詩編 6編

【赦しの宣言】イザヤ書 55：7 「主に立ち帰るならば、主は憐れんでくださる。

わたしたちの神に立ち帰るならば／豊かに赦してくださる。」

【讚美歌】208 「主なる神よ、夜は去りぬ」

【祈祷】

天におられる、わたしたちの父なる神さま、御名を賛美いたします。

今朝も、わたしたちに新しい命、新しい朝、新しい主の日を備えてくださり、一人一人の名前を呼んで、この礼拝に招いてくださったことを、心から感謝いたします。

これから共に、聖書の御言葉を聞きます。聖霊なる神さまが、語る者、聞く者に豊かに働いてくださり、わたしたちの目を、耳を、心を開いてください。そして、御言葉を通して、あなたの恵みの御心を、深く悟ることが出来るよう導いて下さい。この礼拝の中心に、生きておられる復活のイエスさまがいて下さり、豊かな交わりに与かって、わたしたちの信仰がますます力強く励まされますように。そして、聖霊によって新しくされ、今日から歩み出す一週間を、神さまの御心に従って歩む者とならせて下さい。

このお祈りを、主イエス・キリストの御名によってお祈りいたします。アーメン

【聖書】イザヤ書 53：11～12、ルカによる福音書 22：31～34

【説教】「あなたのために祈った」

<信仰とは>

今月から来月にかけては、主の日の礼拝では、イエスさまの受難週の歩みを辿って、御言葉を聞いていきます。今日の場面は、イエスさまが十字架に架かれる前の夜、「最後の晩餐」が行われた直後に、その席で起こった出来事です。

「最後の晩餐」については、次週、御言葉に聞きますが、これは、わたしたちが毎月、共に与っている「聖餐」の起源です。

「最後の晩餐」で、イエスさまは、これから迎えられるご自分の十字架の死が、神さまの救いの約束を実現するものであることを示されました。

その救いの約束が示された中で、イエスさまは、十二弟子の中の一番弟子、シモン・ペトロに語りかけられたのです。

「シモン、シモン、サタンはあなたがたを、小麦のようにふるいにかけることを神に願って聞き入れられた。しかし、わたしはあなたのために、信仰が無くならないように祈った。だから、あなたは立ち直ったら、兄弟たちを力づけてやりなさい。」

「信仰」。さて、信仰とは、何でしょうか。わたしたちは、信仰があるからこそ、神さまを信じ、イエスさまを救い主と信じ、ここで、このように礼拝をささげています。

信仰を持っている者が、「信仰者」「信者」と呼ばれます。

でも、わたしたちは、いつも「信仰」のことで悩んだり、つまずいたり、落ち込んだりしているのではないのでしょうか。

今日のペトロは、一見、とても力強い信仰を持っているように見受けられます。先ほどの、イエスさまが語られたことへのペトロの返答は、自信に満ち溢れていました。

33 節「するとシモンは、『主よ、御一緒になら、牢に入っても死んでもよいと覚悟しております』と言った。」

ここまで言えたら、かっこいいですね。でも、イエスさまは、このペトロの覚悟を、すぐに否定なさったのです。

一方、わたしたちは、ペトロとは反対で、「信仰」について、自信がない人の方が多いかも知れません。わたしの信仰は大丈夫だろうか。こんな弱い信仰でいいのだろうか。最後まで神さまを信じ続けることができるのだろうか。

…でも、そのように考えることも、イエスさまは否定なさるでしょう。

本当の「信仰」とは何なのでしょう。どうやって、わたしたちはイエスさまに従って行ったら良いのでしょうか。

今日はそのことを、聖書のみ言葉から、共に示されたいと思います。

<サタンのふるい>

さて、イエスさまが語られたことを、もう一度聞いてみましょう。まず 31～32 節にはこうありました。「シモン、シモン、サタンはあなたがたを、小麦のようにふるいにかけることを神に願って聞き入れられた。しかし、わたしはあなたのために、信仰が無くならないように祈った。だから、あなたは立ち直ったら、兄弟たちを力づけてやりなさい。」

イエスさまは、弟子たちが、これからサタンによって、小麦のようにふるいにかける、と語られました。

「ふるい」というのは、当時、小麦を収穫したら、そこに石やゴミも一緒に混ざっているので、ふるいにかけて、小麦だけを取り出すために用いられました。つまり、小麦と他のものを選別する、分ける、ということです。残るもの、残らないものを分ける。本物か、偽物かを見分ける。合格、不合格を決める、と言ってもよいでしょう。

イエスさまは、これから十二人の弟子たちが、一人残らずふるいにかけられ、イエスさまに従うその信仰が、本物か偽物か試されるだろう、と言われたのです。

わたしたちもまた、イエスさまを信じて歩む中で、様々な出来事を経験し、信仰が試されることがあります。

その時には、自分が信仰だと思っているものが、本物か、偽物かがはっきりします。そして、偽物だったならば、わたしたちは大きに揺らぎ、つまずき、倒れます。

そのような時に、サタンは働いて、わたしたちに、「自分は神さまを信じることがなどできないのだ」、「神さまの救いなどないのだ」、「こんな自分は救われないのだ」と、思い込ませようとするのです。そして、神さまから、わたしたちを引き離そうとするのです。

さて、ここでわたしたちは、どうして「サタン」などというものが存在しているのか、疑問に思うかも知れません。

聖書に語られている「サタン」とは、こういう背格好で、黒くて、しっぽがあって、というようなものではありません。そうではなく、「サタン」は、わたしたちを、神さまから引き離そうとする力。信仰を失わせるような誘惑のことを意味しています。

わたしたちは、生きていく中で、耐えがたい苦しみや悲しみ、不条理な、理不尽な出来事に遭遇することがあります。想定外の、危機的な状況を迎えることがあります。また、サタンの誘惑と呼ばれるように、罪によって欲望に支配されてしまうこともあります。

それによって、どうしようもなく神さまから遠ざかってしまう。神さまの恵みや存在を、疑うようになってしまう。ますます罪の深みへ陥ってしまう。そのようなサタンの力が働いてしまう現実が、この世には、わたしたちには、確かにあるのです。

でも、そのような悲惨な現実を見据えた上で、聖書が最も伝えようとしていることは、このように、罪深い、弱い、わたしたち人間が、全く抗うことが出来ないサタンでさえ、神さまのご支配の許にあるのだ、ということです。

「サタンが、…神に願って聞き入れられた」というのは、そのことを意味しています。

これを、わたしたちは、神さまが、わたしたちをつまずかせてやろうとか、苦しめてやろうと考えて、それらを許しておられる、などと考えるはなりません。神さまは、わたしたちを救うために、御子の命さえ、惜しまず与えくださったお方なのです。

信仰のつまずきや、疑いや、迷いは、わたしたちの罪による弱さによるものであり、また、サタンの誘惑によるものです。

しかし、どんなにサタンがわたしたちに力を振るったとしても、決して神さまに対抗できるような存在ではない。見えるものも、見えないものも、天使も、サタンも、わたしたちも、すべてを支配しておられるのは、神さまただお一人である。神さまは、どのような苦しみ、悲しみ悩みも、すべてご存知であり、わたしたちをその御手の中に置いてくださる。聖書は、そのことをはっきりと、わたしたちに教えようとしているのです。

<ペトロの覚悟>

さてイエスさまは、十二弟子の中の、特に一番弟子のペトロを名指しで、言われました。

「シモン、シモン、サタンはあなたがたを、小麦のようにふるいにかけることを神に願って聞き入れられた。しかし、わたしはあなたのために、信仰が無くならないように祈った。だから、あなたは立ち直ったら、兄弟たちを力づけてやりなさい。」

このイエスさまの言葉は、ペトロにとって、心外極まりないことだったに違いありません。だって、「あなたはふるいにかけてられる。しかし、わたしはあなたのために、信仰が無くならないように祈った」ということは。ふるいにかけてられたら、ペトロ、あなたの信仰は、残らないだろう。不合格となるだろう。でも、あなたのために祈ったから、大丈夫だよ、ということだからです。

ペトロには、イエスさまが、自分の覚悟のほどをご存知なくて、自分を認めてくださっていないように感じられたかも知れません。それで、すぐにこう言い返します。

「主よ、御一緒になら、牢に入っても死んでもよいと覚悟しております。」

ペトロの覚悟は、大したものです。わたしには、イエスさまと、どこまでも一緒に行く覚悟がある。それは、牢に入って、死んでもよいほどの覚悟だ。最後まで、必ず従い抜くことができる。ふるいにかけても、何が起こっても、わたしの信仰は絶対に大丈夫です。そうペトロは宣言したのです。

ところが、イエスさまは、このペトロの覚悟を、すぐに否定なさいました。

「イエスは言われた。『ペトロ、言うておくが、あなたは今日、鶏が鳴くまでに、三度わたしを知らないと言うだろう。』」

そして、実際にイエスさまが言われたとおり、ペトロは、この数時間後に、イエスさまのことを三度知らない、と言うのです。何か拷問を受けたり、酷い目に遭わされたわけではありません。ただ、「イエスの仲間ですよね？」と問われただけで、ペトロは怖くなって、イエスさまとの関係を、完全に否定してしまったのです。

あっという間に、簡単に、ペトロの死ぬほどの覚悟は無くなり、砕け散りました。

…でも、あのペトロの「主よ、御一緒になら、牢に入っても死んでもよいと覚悟しております」との言葉は、その時は、決して偽りではなかったと思います。イエスさまに従い抜いて行くと、心の底から、本当に、真実に、そのように覚悟していたのだと思います。

しかし、人から出たものは、どれだけ本当だ、真実だと思っても、絶対のものではなく、簡単にひっくり返ってしまうのです。

ですから、人の覚悟や決意によるものは、決して、本物の信仰とはなり得ません。

この時のペトロは、「自分は最後まで従い抜くことができる」という、自分の力、自分の信念、自分の覚悟を、確かなものとして信じていました。イエスさまの弟子として、自分が最後までイエスさまを信じ抜いて、イエスさまに従い抜くこと。これぞ、自分の「信仰」だと信じていました。また、それをイエスさまに、認めて貰いたかったのです。

でもそれは、本物ではなく、偽りの信仰でした。ふるいにかけてられたら、何も残らない信仰でした。それは、恐れの前で、不安の前で、あっさり吹き飛んで無くなったのです。

そして、わたしたちもまた、「信仰」を、自分の意志や、覚悟や、自分が信じる思いの強さのように考えているところが、あるのではないのでしょうか。

わたしたちは、ペトロとは反対で、「自分は信仰が弱い」と感じることの方が多いかも知れませんが、何が大変な困難が襲ってきたら、とたんに不安になってしまふ。恐れに憑りつかれてしまふ。神さまの恵みを疑ってしまふ。そして、自分の信仰は大丈夫だろうか。なんて弱くて小さい信仰だろうか、と嘆いてしまふのです。

でも、それは結局、ペトロの自信に満ち溢れた「覚悟の信仰」の、裏返しです。

信仰に自信がないというのは、結局、信仰は、自分の力によるものだ、自分の覚悟が必要だ、と思っているということです。「自分の信仰が弱い」と嘆くのは、自分が強くなることによって、信じ続けることが出来る、と思っているということです。

信仰に、自信があるのも、自信がないのも、それは信仰が、自分の力によるものだと思っているからなのです。

ふるいにかけてられるとき、困難や、悲しみや、試練に遭うとき。それらは、わたしたちの信仰がどのようなものかを明らかにします。そして、わたしたちが誤った信仰を持っているならば、それは、わたしたちを打ちのめした末に、消えて無くなってしまふのです。

では、まことの信仰とは何なのでしょう。わたしたちは、どのようにして、最後までイエスさまを信じ、従って行くことが出来るのでしょうか。

<真実>

ここで、イエスさまの御言葉を聞きましょう。イエスさまは、これからふるいにかけてられ、その信仰が偽物であると示されるペトロに、また、わたしたちに、こう語りかけてくださいます。「しかし、わたしはあなたのために、信仰が無くならないように祈った。だから、あなたは立ち直ったら、兄弟たちを力づけてやりなさい。」

…信仰は、わたしたちが自分の力で信じ抜き、死ぬ覚悟で、支え、保っていくものではありません。まことの信仰とは、このようにイエスさまによって、祈られ、支えられ、守られ、保っていただくものなのです。イエスさま側に、主体があるのです。

「信仰」とは、信じる、信頼する、ということですが。そもそも、信じること、信頼することは、わたしたちの覚悟や努力で、頑張っていることではありません。

不誠実だと分かり切っている相手を、頑張っている、努力して信頼する、なんていうことは出来ないのです。

相手が、誠実な人物である、真実な人である、必ず誠意をもって応えてくれる人である、と知るからこそ、わたしたちは、心からその人を信頼することができるのです。

「信仰」と訳されているギリシア語（ピステイス）は、「真実」とも訳すことができます。つまり、わたしたちの信仰は、「イエスさまの真実」による、ということです。

イエスさまが、真実な方であることによって、わたしたちは、信仰を持つことができる。信じることができる。心からより頼み、信頼し、従っていくことが出来るのです。

では、わたしたちは、どうしてイエスさまが、信じるに足るお方であることを、真実な方であることを、知ることが出来るのでしょうか。

どうして、自分の人生を、命を、存在を、イエスさまというお方が、救い、支え、守ってくださると、信じる事が出来るのでしょうか。

…イエスさまが真実であることは、イエスさま御自身が、ご自分の十字架と復活の出来事によって示してくださいました。

わたしたちを救うためなら、どこまでも低くへりくだり、わたしたちのために苦しみを受け、罪をすべて背負い、ご自分の命も惜しまずに捨ててくださるといふこと。それほどまでに、わたしたちを愛してくださっており、十字架の死に至るまで、わたしたちを最後まで、愛し抜いてくださるといふこと。

そして、死者の中から復活し、わたしたちの罪と死に、打ち勝つことがお出来になるといふこと。まことの救い主であるといふこと。

イエスさまは、その真実を、ご自分の十字架の死と復活によって、はっきりと証明してくださいました。

このように、確かな出来事によって示された、イエスさまの真実は、もはや取り消されることも、揺らぐことも、ひっくり返されることもありません。イエスさまの真実は、わたしたちの罪深さや、弱さや、不誠実さによって、変わることはありません。

わたしたちが弱くても、罪深くても、偽りばかりのものでも、イエスさまの真実は常に変わらないから。その救いは、愛は、本物だから。だから、わたしたちは救われるのです。

イエスさまの真実が、わたしたちを救い、イエスさまのものとして捕らえ、保ってくださるから。わたしたちは、最後まで、イエスさまを信じて、イエスさまに依り頼んで、イエスさまに従って行くことが出来るのです。

だから、イエスさまは、このご自分の真実のゆえに、ペトロのために、わたしたちのために、こう祈ってくださることがお出来になります。

「しかし、わたしはあなたのために、信仰が無くならないように祈った。」

これから、ペトロの覚悟が、粉々に砕け散ることを、イエスさまはご存知です。わたしたちが、苦しみや、嘆きや、困難の中を歩む日があることを、イエスさまはご存知です。

その時、わたしたちは、自分の信仰が、自分の力に頼るものになっていないか。本当にイエスさまの真実に頼る、まことの信仰であるか。そのことを吟味させられます。

しかし、そのときイエスさまが、ペトロのために、わたしたちのために、信仰が無くならないようにと、ご自分の真実にかけて、祈ってくださっているのです。

あなたを救うのは、わたしだ。あなたを捕らえているのは、わたしだ。あなたを立ち上げさせ、恵みの内に生かしていくのは、わたしだと、語りかけてくださるのです。

この真実なるイエスさまによって生きることこそ、わたしたちの信仰なのです。

<イエスさまのまなざしの中で>

ですからイエスさまは、ご自分が成し遂げられる十字架と復活において、ペトロの未来の姿へも、眼差しを向けておられます。イエスさまは、ペトロにこう言われました。

「だから、あなたは立ち直ったら、兄弟たちを力づけてやりなさい。」

イエスさまは、ペトロがこの後、イエスさまのことを徹底的に否定し、偽りの信仰が明らかになり、激しく泣いて、ボロボロになってしまうことをご存知です。

でも、これからイエスさまが、まさにそのペトロの弱さを、罪を、すべて背負って、十字架に架かり、罪を贖ってくださるのです。そして、イエスさまが、ペトロの罪と死を打ち破って復活し、ペトロをご自分のものとし、愛と、命と、恵みのご支配の中に置いてくださるのです。そのゆえにイエスさまは、ペトロに、「あなたは立ち直ることが出来る。そして、兄弟たちを力づけてやる事が出来るのだ」と語ってくださるのです。

ペトロの裏切りも、救いも、新たな歩みも、始めから最後まで、そのすべてが、そのイエスさまの愛の眼差しの中に、置かれているのです。

…わたしたちは、十二使徒の一人として、イエスさまの福音を力強く宣べ伝え、初代教会のリーダーとなり、殉教に至るまで、イエスさまに従い抜いたペトロを、信仰の強い、立派な、素晴らしい人物として受け止めていたかも知れません。

でも、今日の聖書箇所には、ペトロの、あまりに惨めで、未熟で、格好悪い姿が、実に赤裸々に記録されています。

それは、恐らくペトロ自身が、このことを喜んで語り伝えたからだと思うのです。

ペトロは、自分の弱さを、覚悟の言葉の空しさを、罪深さを。イエスさまを否定し、見捨てるという、最も恥ずかしい仕方で、思い知らされることになりました。

でも、そのような偽りの信仰しか持たず、イエスさまを見捨て、結局、何もかも無くなって、空っぽになってしまった自分を、それでもイエスさまは見捨てられなかった。

そんな自分のために、祈ってくださった。そんな自分のために、十字架に架かってくださった。そして、そんな自分のために、イエスさまは、復活して、生きて、今も共にいて、支えてくださっているのだ、と。

ペトロは、喜びに溢れて、感謝に溢れて、自分の弱さに現わされた、このイエスさまの、確かな、力強い、愛と救いの真実を、多くの兄弟たちに語ったのではないのでしょうか。

こうして、ペトロを立ち上がらせ、新しい力を与え、生き生きと福音を宣べ伝えさせられたのは、ペトロを、まことの信仰に生かし、最後まで歩み通させてくださったのは、イエスさまの真実に、他ならないのです。

そして、わたしたちもまた、このイエスさまの真実によって、救われ、捕らえられ、イエスさまに生かされている信仰者として、今ここに集わされているのです。

わたしたちも、これから、つまずいたり、倒れたり、もうだめだと思うことがあるかも知れません。自分の罪によって、打ち砕かれることがあるかも知れません。

ふるいにかけて、自分の偽りの信仰に、愕然とすることがあるかも知れません。

でも、わたしたちは、そこで、自分の心の弱さや、失敗したことや、どうしようもない罪に、心を捕らわれてしまっただけではないのです。

自分の弱さに捕らわれているとき、自分の罪に執着しているとき、わたしたちは、神さまを見ないで、自分ばかりを見つめています。それこそ、神さまから顔をそむける罪であり、人を神さまから遠ざけようとする、サタンの思うツボなのです。

わたしたちは、そのような時こそ、十字架と復活のイエスさまを見上げなければなりません。そして、そこでこそ、わたしたちは、まことの信仰に、出会うのです。イエスさまの真実に、出会うのです。

わたしのために祈ってくださったイエスさま。わたしの弱さも、罪も、すべて引き受け、わたしの代わりに十字架に架かってくださったイエスさま。そして、わたしのために復活し、すべてに勝利し、今も共にいてくださるイエスさまと、まことに出会うことが出来るのです。

その時、わたしたちは、ますますイエスさまに依り頼むようになり。ますますイエスさまなしでは生きられなくなり。ますますイエスさまを愛する者となっていきます。

「わたしはあなたのために、信仰が無くならないように祈った。」

このイエスさまのみ言葉は、真実です。だから、わたしたちは、イエスさまによって、祈られ、支えられ、保たれ、終わりまで、信仰の道を歩んで行くことが出来るのです。

【お祈り】

天の父なる神さま、御名を賛美いたします。

十字架と復活の御業に現わされた、イエスさまの真実は、とこしえに揺らぐことはありません。ですから、どうかわたしたちが、空しいものを頼みとすることがありませんように。あなたの愛を、イエスさまの救いを、心から確信し、信頼する、まことの信仰に生きることが出来ますように。聖霊の導きをお与えください。

イエスさまの祈りによって、わたしたちをお守りください。イエスさまの御手によって、終わりの日まで、わたしたちを恵みの許に保ち、捕らえていてください。

そして、あなたと共に生きる信仰の歩みを、感謝と喜びのうちに、全う出来ますように。わたしたちの救い主、イエスさまの御名によってお祈りいたします。アーメン

【讚美歌】 4 5 6 「わが魂を愛するイエスよ」

【信仰告白】 ニカイア信条

【十戒】

【献金】 6 5 - 1 「今そなえる」

【主の祈り】

【祈祷】天の父なる神さま、御名を賛美いたします。

わたしたちを愛し抜いてくださる、イエスさまの十字架と復活の恵みによって、この新たな一週間も、あなたを愛し、あなたに従って、歩む者とならせてください。

主よ、わたしたちの兄弟姉妹の中で、悲しみを覚えている者に、どうか、平安と慰めをお与えください。体の弱さや痛みを覚えている者に、豊かな癒しをお与えください。困難を抱えている者に、御心に適った知恵と、導きとをお与え下さい。

また、今ここに集うことが出来ない、お一人お一人に、この礼拝のみ言葉と、祝福と、恵みとを、聖霊によって、共に豊かに与らせてください。

イエスさまにあって、一つの体とされているわたしたちが、共に喜びも、困難も分かち合い、心を一つにして、祈りを一つにして、あなたの救いの恵みを、共にほめたたえつつ、歩んでいくことが出来ますように。

また、この群れに招かれている求道者の方々を覚えます。どうか、聖霊の導きによって、イエスさまの真実と出合い、その恵みを信じて受け入れることが出来ますように。イエスさまを主として、その人生を御手に守られ、導かれて歩む、まことに幸いな歩みへと導かれますように、心から祈り願います。また、わたしたちの愛する家族や、友や、隣人も、どうか、この幸いへと招いてくださいますように。

神さま、宮崎中部教会は、今年度、10月から半年間、無牧師の時を迎えることとなり、今、さまざま備えをしております。どうか、特に大きな務めを担う長老会に、聖霊の賜物を与え、お支えください。また、教会に連なる一人一人の信仰を、力強く守り、導いてください。そしてこの群れが、心を合わせて祈り、み言葉に従い、礼拝と聖餐を重んじ、ますますあなたにより頼み、いよいよ豊かな恵みをいただけますように。力強く成長する時とされますように。そして、感謝と喜びをもって、あなたが遣わしてくださる新しい牧師を、お迎えすることが出来ますように、心から祈り願います。

また、代務をしてくださる岩住先生、また送り出してくださる都城城南教会、また、この期間、祈りと御言葉の奉仕を持って支えてくださる九州連合長老会、全国連合長老会の群れを、どうぞ祝し、その働きを守り、豊かな恵みを注いでください。

同じ信仰に立つ群れが、共に祈り、困難を分かち合い、一つとなって歩んでくださることを感謝いたします。また、わたしたちも、諸教会を覚えて祈り、仕えていくことが出来ますように。そして、それぞれの地で、いよいよ福音を力強く宣べ伝えていくことが出来ますように。

神さま、戦争や、国の混乱で、苦しんでいる人々を覚えます。自然災害で、困難の中にある人々を覚えます。特に、小さい者、年老いた者、弱い者がを顧みてくださり、一日も早く助けの御手を伸ばして、お救い下さい。わたしたちもまた、そのことを覚えて祈り続け、愛の業に仕え、なすべきことを、なすことが出来ますように。そして、どうか、イエスさまのまことの平和が、この地になりますように。

このお祈りを、主イエス・キリストの御名によってお祈りいたします。アーメン

【讚美歌】29「天のみ民も」

【祝福】主があなたを祝福し、あなたを守られるように。

主が御顔を向けてあなたを照らし あなたに恵みを与えられるように。

主が御顔をあなたに向けて あなたに平安を賜るように。

主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、

あなたがた一同と共にあるように。アーメン